

全国曹洞宗青年会

SOUSEI

2015.5 No.169

平成11年6月8日第三種郵便許可(年4回2・5・8・11月の10日発行) そうせい第169号平成27年5月発行

「特集」**全国徒弟研修会with国際子ども禅のつどい**
[対談]相承のとき — 櫻井尚孝第20期会長×安達瑞樹第21期会長 —



未来へ！

40th
ZENSOUSEI
40th Anniversary

繋がる想いが未来を拓く

特集

大本山總持寺一祖峨山韶碩禪師650回大遠忌奉贊
『全國徒弟研修会 with 國際子ども禅のつどい
～未来へ向けての大きいなる足音～』開催レポート

全国徒弟研修会

！



拓け未来 想い繋いだ3日間

日本参加徒弟・子弟／120名、31都道府県・41宗務所
海外参加仏教徒・世界仏教徒青年連盟執行部／69名、8ヶ国（インド、
ネパール、バングラデシュ、タイ、マレーシア、台湾、韓国）

平成27年（2015年）3月26日から28日にかけて、大本山總持寺を会場に「全國徒弟研修会 with 國際子ども禅のつどい」が開催されました。全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）創立40周年を記念して企画されたこの研修会は、大本山總持寺一祖峨山韶碩禪師650回大遠忌の年に開催する仏縁を頂戴し、また国際仏教徒青年交換プログラム（IBYE）を併催するという仏縁にも恵まれました。峨山禪師様が未来に託された想いを相承し、また様々な国の青年仏教徒と出会い、語り合い、共に行azarする2泊3日となりました。参加者は、それぞれにかけがえのない思い出を持ち帰ることができたのではないかと思います。本特集では、この研修会の様子を写真とともに振り返ります。



1日目(3月26日)

■受付・オリエンテーション・アイスブレイク

午後1時30分に受付を開始。全国や海外から続々と参加者が大本山總持寺三松閣に到着しました。午後2時は三松閣4階の大講堂に参加者全員が集合し、倉島隆行事務局長から日程及び注意事項が伝えられました。

心なしか緊張の面持ちでいた参加者の緊張を緩和すべく、引き続き行われたアイスブレイクでは、各班に分かれての初めての共同作業を行つてもらいました。日本語で出題されたなぞなぞに、海外からの参加者が日本の参加者からヒントを教えられ、日本語で答えたり、逆に英語の出題を海外からの参加者が教える側にまわり日本の参加者が英語で答えたりしました。解答権が、早く手を挙げるだけではなく元気に手を挙げたグループに与えられたこともあり、最初はお互いに言葉少なだった各班も活発に言葉を交わし合い、元気に手を挙げていました。続いて岩崎哲秀副会長から「ブツダクラップ」という、誓いの言葉に合わせて全員が同じタイミングで「ブツダ」と唱え手を叩くゲームをしました。そのゲームが終わる頃には、参加者もすっかり笑顔になつていきました。

■開講式

午後3時30分から、櫻井尚孝会長が導師を務め、参加者とともに般若心経をお唱えし、この研修会の安全と参加者の健康を祈願いたしました。

その後、大本山總持寺から乙川暎元監院老師と新美昌道大遠忌局局長老師、海外からの参加者を代表して世界仏教徒青年連盟(WFBY)ポンチャヤイ・ピニヤポン会長(タ

続々と三松閣に参集する徒弟の皆さん→



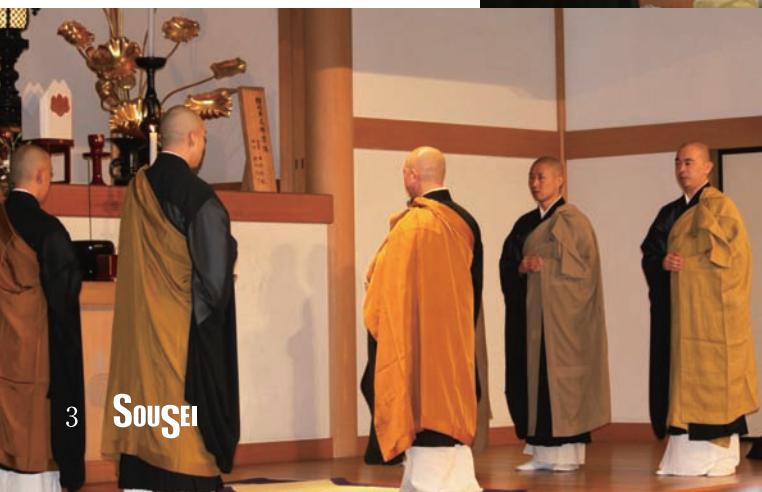
オリエンテーションの様子↓



アイスブレイクの様子↓



櫻井会長導師による開講諷経↓



(イ国)よりお祝いと激励のご挨拶を賜りました。

最後に、櫻井会長より「ぜひ楽しんでください。また、これから3日間が、みなさんにとって一生の記憶に残る思い出となることを望みます。IBYEに参加の皆さん、積極的に日本の仏教を担う子どもたちと交流していただくことを願います」とご挨拶いたしました。

■諸堂拝観

午後4時からは、国内参加者3組、海外参加者2組に分かれて諸堂拝観を行いました。大本山總持寺で修行を続けている雲水さんに伽藍や建物の歴史を説明しながら案内していただき、海外参加者にはそれぞれ英語訳での説明がありました。参加者は、長い百間廊下や、大改修を終えたばかりの大祖堂の大きさに驚いていました。大祖堂の大間外では、明日の朝課に備えた焼香の説明があり、緊張の面持ちで実際に香炉に抹香を焚く練習を行いました。

■薬石・入浴

午後5時からは、交代で薬石(夕食)と入浴。参加人数が多く、また、海外参加者の中には大勢での入浴をしない国の方もおられるので、大浴場には何班かに分けて入浴し、海外参加者には少人数・または個別での入浴をしていただきましたなど様々な方法で対応いたしました。

薬石では、雲水さんたちと同じ献立をいただきました。

食事の前は合掌をして「五觀の偈」をお唱えし、食事が終わったら香菜(おつけもの)を使って、お茶で器を洗いました。初めて経験する参加者も多かったため食事のペースはゆっくりでしたが、その分、皆丁寧に食事をいたしました。器を洗い終わったら、再び合掌して「普回向」

乙川暎元監院老師よりご挨拶を賜る



櫻井尚孝会長による挨拶



雲水さんによる山内の案内



をお唱えいたしました。

■坐禅指導・夜坐

午後7時からは、先ず明日の朝のお勤めに備えたお経の読み方指導。

その後、坐禅指導を受け、10分ほどの夜坐（夜の坐禅）を修行しました。坐蒲に向かつての合掌低頭や両足を組む作法など、初めての経験になかなか苦労している参加者が多く見受けられました。止静（坐禅開始の鐘）が鳴つて静寂が訪れると、参加者は背筋を伸ばし、その懸命な姿は、一人一人が小さな「ほとけさま」にも見えました。

■茶話会

坐禅終了後は、お茶やお菓子をいただきながらの自己紹介を行いました。リラックスしてお互いに今日の感想や自分のことを伝え合う中で、国籍や言葉や年齢は違つても、徐々に打ち解けていく姿があちこちで見られました。茶話会が終わると雲水さんやスタッフの指導の下、自分たちが就寝する布団を参加者同士で協力しながら準備。開枕（就寝）となりました。

2日目（3月27日）

■暁天坐禪・朝課

午前4時30分起床。皆で協力して布団を片付けて洗面をし、暁天坐禪（朝の坐禪）をいたしました。普段の生活では考えられない早い起床時間であつたため皆眠そうでしたが、背筋を伸ばし、呼吸を調えることにより、しつか

子どもらしい素直な坐相



茶話会ではお互いに自己紹介



りとした坐禅の姿となつていきました。その後、長い廊下を歩いて大祖堂に移動し、朝課（朝のお勤め）に参加いたしました。大勢の僧侶の方がたによる法要に参加し、ともに合掌礼拝をし、雲水や役寮の皆さんとの読経に合わせ、しおりを見ながら『般若心経』をともに読誦。続いての御両尊諷経では合掌して大間の中央を進み、正面でご本尊様へお焼香をいたしました。

■小食・作務

朝課の後は、小食（朝食）の時間です。

小食のお粥はかぼちゃが入った玄米粥、ごま塩や香菜やナスの炒め物などの別菜が添えられていました。研修会での食事も2回目ということもあります。お唱えや作法は昨日習った通りスマーズにできていました。基本的な作法が身に付いた参加者には、淨人係から「両手で器を取り、両手で静かに置くと音がしない」などの、より細かい作法が伝えられました。

暫くの休憩の後は、作務（掃除や草取りなどの作業の総称）の時間。山内の百間廊下などを3班に分かれて雑巾掛けしました。競争ではありませんが、見本を見せてくれた雲水さんたちの速さを見て、参加者も負けじと一生懸命に、低い姿勢で廊下の雑巾掛けをしていました。

■ウォークラリー・記念植樹

午前9時からはウォークラリー＆植樹。山内に設けられた8つのチェックポイントを班毎に巡回し、スタンプを集めながらゴールに向かいました。各チェックポイントにはそれぞれに課題があり、「折り鶴を作る」ポイントでは日本参加者より海外からの参加の方々が早く折り鶴を完成できたり、「観音様に、全員で明日までの目標を誓う」ポ



イントでは、班の皆が納得する目標を決めるのに時間が掛かたり…。それぞれ、班の仲間と協力し合い、課題をクリアしながら進んでいきました。

ウォークラリーが終わると、ゴールである大祖堂前に植樹。二祖峨山韶碩禪師にご縁のあるツツジの一種「能登峨山キリシマ」を植樹し、班毎に記念写真を撮影しました。

■記念制作

中食（昼食）の後、午後1時30分からは記念制作。岩崎哲秀副会長が記念制作に先立ち、法話を日本語と英語で行いました。続いて日比野克彦氏（アーティスト、東京藝術大学美術学部先端芸術表現科教授）を監修にお迎えし、先ずはクレヨンで感情を色で表すゲームを行いました。その後、2枚の絵馬に色を塗り、表と裏の両面それぞれにその時の「陰と陽」「ポジティブとネガティブ」な感情や、過去と未来を色で表現するよう指導されました。初めての経験であつたため最初は悩んでいる参加者も多くいましたが、先ずは感情や様子を文章で書いてそれを色にしてみたり、逆に、先に色を塗つてからこれはどういう感情や様子を表現しているのか文章にしてみたり、試行錯誤の中で自分の「色」を見出していました。

最後に、でき上がった絵馬を予め用意したツリーに下げ、全員の思いと色が一つの大きな樹木に見えるような記念制作「エマツリー」（絵馬樹）が完成しました。

■両箇の月 震災慰靈法要
薬石にうどんをいただいた後、午後6時30分からは「両箇の月 震災慰靈法要」が大祖堂にて開催されました。

大改修を終えた大祖堂の両側に吊り下げられた二つの大きなスクリーンに、瑩山禪師と峨山禪師の「両箇の月」

記念制作の絵馬に想いを込めて



記念制作を監修された日比野克彦氏



みんなの「エマツリー」が完成



の逸話に因んだ大きな月が投影される中、本行持は進行いたしました。また、大間の右側には、記念制作で参加者全員が協力して制作した「エマツリー」（絵馬樹）が設置され、参加者の願いや想いが込められた大きなモニュメントとして、参加した徒弟・海外青年仏教徒・大本山總持寺役寮諸老師・大衆・全曹青スタッフを見守りました。

進行は安達瑞樹副会長が担当し、海外からの参加者は栖川直道国際特別委員が英訳をいたしました。

第1部では、今回の為に特別に編集された映像「東日本大震災 復興への祈り」が上映され、これまで被災地で全曹青が取り組んできた活動の映像が映し出され、東日本大震災で亡くなられた方がたや被災された方がたに想いを寄せ、また、被災地の早期復興への祈りを呼びかけました。

第2部は「鎮魂の祈り～皆の祈りを絵馬に込めて～」と題し、参加者それぞれがあらかじめ渡されたLEDキャンドルを自らの前に置き、静かに坐って祈りを捧げました。その後、御詠歌『淨心』、御和讃『四攝法御和讃』が堂内に響く中、モニュメントの前に進んで、一人ひとりの祈りを灯りに託すキャンドルを献灯しました。

全員が自分の場所に戻ると、これまでの2日間の活動の様子をスライドショーにまとめた映像が御詠歌『まごころに生きる』にのせて放映されました。

そして第3部は、三重県曹洞宗青年会の和太鼓集団「鼓司」による太鼓演奏「つなぐ！未来への鼓動」。青い光の中、網代笠を被った修行僧の一団が鈴を鳴り響かせながら堂内を巡る幻想的な光景から始まりました。太鼓の演奏に移り変わると、静から動への転換に太鼓の迫力も増し、勇壮な響きが大祖堂内に響き渡りました。伝統を守りながら、斬新な演出で修行の様子を描いた、熱意の込もつた素晴らしい演奏に参加者一同は惜しみない拍手を送つていました。

震災慰靈法要の進行を務める安達副会長

キャンドルに慰靈と復興への祈りを込める

静寂が戻ると、最後に安達副会長から「ぼさつの願い」として「平和・幸せの想いは世界共通の願いです。今も昔も変わりはありません。私たちが受け継いだもの、引き継ぐものにはなにか?」「もし悲しんでいる人がいたら、手をそっとにぎってあげて、ほほえんでください。それが一番の力になります」とのメッセージが伝えられました。法要が全て終了すると、参加者はモニュメントに献灯したキャンドルを記念にひとつずつ持ち帰りました。

■夜坐

大講堂に戻ると、午後8時過ぎからは夜坐。1日目の夜、2日目の朝に続き3回目の坐禅ともなると、各自作法通りに坐蒲に坐り姿勢と呼吸を調えていました。中には合掌して自ら進んで警策をいただく参加者もあり、静寂の中に肩を打つ「ビシッ」という鋭い音が時折響いていました。

その後は、前日と同じく自分たちで布団を準備し、午後9時過ぎに開枕となりました。

■暁天坐禪・朝課

前日と同じく午前4時30分起床。布団を大講堂の外に積み上げるとともに、2日間使用した枕カバー・シーツを返却しました。洗面の後は暁天坐禪。終わると午前5時15分には整列し大祖堂に向かいました。前日と同じく1時間ほどの朝課でしたが、昨日とは違い法要中にふと数分の静寂が訪れることがあり、参加者は読経や焼香とはまた違った、張り詰めた緊張感を肌で感じていました。

3月28日(3月28日)



三重県曹洞宗青年会「鼓司」による和太鼓公演

献灯したキャンドルは、参加者それぞれが持ち帰り分灯されました



■小食・作務・着付け

小食をいただいた後、9時からの法要に着物で参加する徒弟は大講堂に残り、普段着で参加する徒弟と海外からの参加者は昨日と同じく回廊掃除の作務に向かいました。

まだ着物や大衣の着方が一人では分からぬ徒弟も多く、大講堂では壇上のスタッフが見本となり、倉島隆行事務局長の説明を聞き、参加者全員で確認しながら着物を身に付けていきました。合間に20人ほどのスタッフがあり、説明を加えたり手伝いをしたりしました。着物の着方だけでなく、緒子の扱い方や三拜の仕方などの進退（基本的な所作の作法）を学びました。

■二祖峨山韶碩禪師六五〇回大遠忌法要・緒子御親授式

午前9時から、「二祖峨山韶碩禪師六五〇回大遠忌法要」が大祖堂で勤められました。

殿鐘（大祖堂内にある鐘を鳴らし、法要の開始を告げる合図）が鳴り響き、詠讚師により『峨山禪師御和讃』がお唱えされる中、参加者は正面に導かれ、全員が心を込めて焼香を行つた後、それぞれの位（場所）に案内されました。続いて、大祖堂の鐘と、音色の異なる2種類の手磬（手持ちの鐘）が交互に鳴り響く中、本山役寮の皆様とともに大本山總持寺貫首江川辰三禪師様が大間中央に進まれました。峨山禪師様の遺徳を讃える法語を述べられた後、参加者全員が手を合わせ、三度の礼拝をいたしました。『大悲心陀羅尼』を全員でお唱えした後、再び三度の礼拝をし、峨山禪師様に報恩の誠を尽くしました。

法事が終ると、禅師様は参加者側に向き直られ、引き続き「緒子御親授式」が勤められました。先ず参加者全員が禅師様に三度の礼拝をいたしました。続いて『搭袈裟



の前に合掌して進み、禅師様が焚かれる香によって淨められた絡子（未得度者は数珠）が一人ひとりに授与されました。緊張の面持ちで参加者は禅師様の前に進みました。柔和な笑みを湛えた禅師様に絡子や数珠を授与された参加者は安心して自らの居た場所に戻っていました。また、海外からの参加者の中には、ずっと合掌して授与式を見守る方もおられました。

全ての国内参加者への授与が終わると、参加者全員が禅師様への感謝を込め三度の礼拝。着席の後、禅師様から参加者へのご垂示（ご法話）を頂戴いたしました。

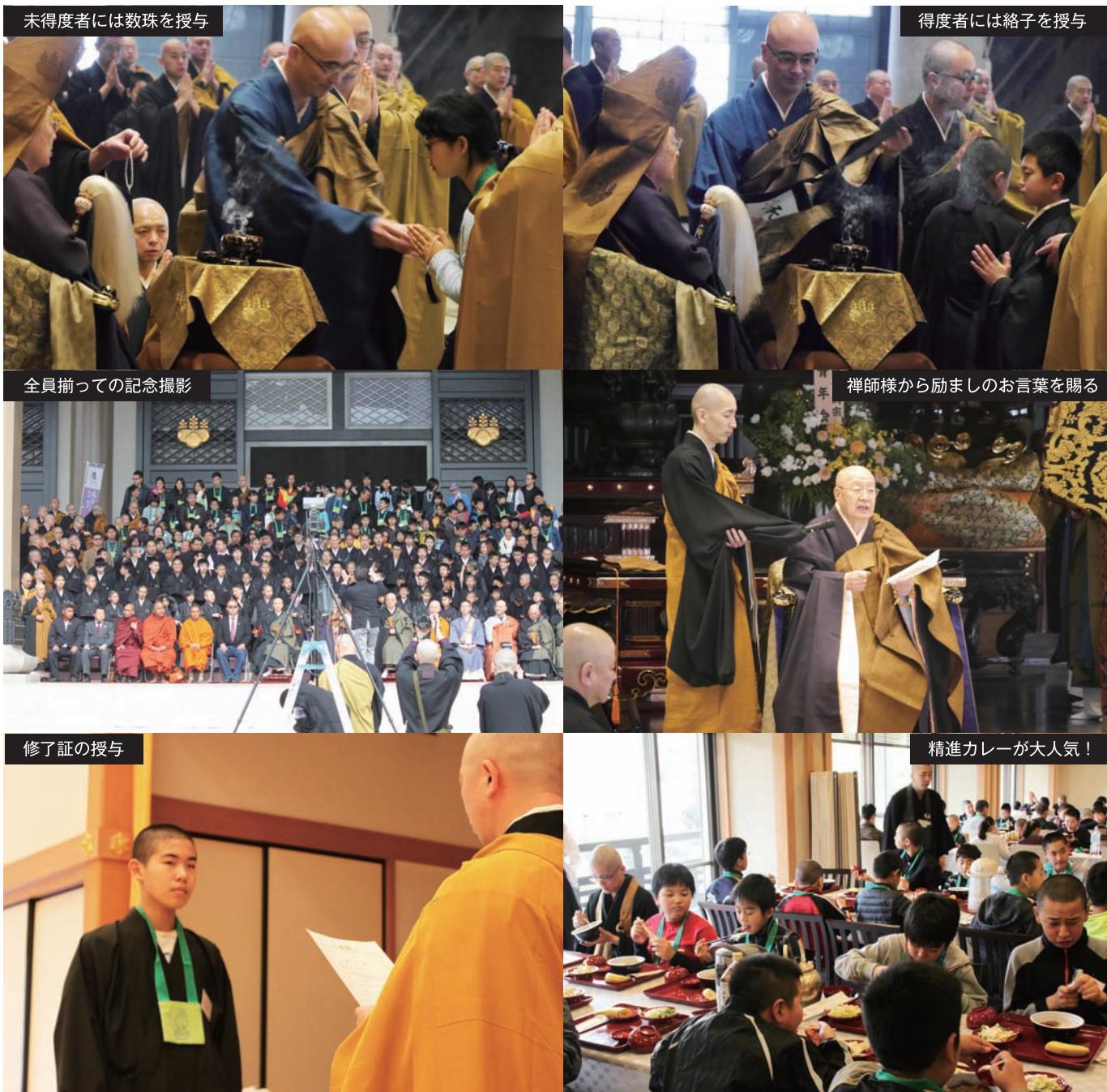
江川禅師様はご垂示の中で、先ずは参加者の修行を勞われた後、一人ひとりそれぞれの尊い命、また仏様に会うことができた尊さ有難さについて説かれました。続けて、「皆様に三本の木（氣）を差し上げます。それは『元気の木』『根気の木』『勇気の木』です。元気一杯日々を楽しく過ごすこと、忍耐心を持ち我慢強く生きること、自分の行動には常に勇気をもって頑張ることです。三本の木（氣）を大切に育ててください」と、前日の植樹になぞらえ、参加者の心の中に三本の木を植えてくださいました。この三本の木と今回の研修の思い出が、今後の参加者の将来にとつて大切なものとなるよう願われ、参加者一同に伝えられました（海外参加者には、岩崎哲秀副会長から翻訳して伝えられました）。

法要終了後には、大祖堂前に出て全員が記念撮影。禅

師様に中央にお出ましいただき、参加者、IBYE参加者、本山役寮諸老師、スタッフの総勢280人ほどが記念写真に收まりました。

■中食・閉講式

法要から戻り、最後の食事となる3日目の中食は、動物性の食材を使わずに野菜で仕上げた精進カレー。参加



ご飯が終わつてしまつてもカレーラーだけでも食べたいと希望する子どもたちも多いほどでした。

そして2泊3日の研修を締め括る閉講式。まず、参加者を代表して北海道から参加の齋藤勇心君が修了証を受け取りました。大本山總持寺・前川睦生後堂老師からのご挨拶を頂戴した後、荒木道宗40周年記念事業実行委員長が参加者への見送りのことば、また、お世話になつた大本山總持寺の役寮諸老師への感謝のことばを述べました。

最後に、2泊3日の研修とともに、国際交流を行つた世界仏教徒青年連盟（WFBY）を代表し、ポンチヤイ

会長から記念品が大本山總持寺・乙川暎元監院老師に贈られました。



謝辞

私は幼少期に大規模な研修会に参加した記憶があります。

内容は詳しく覚えておりませんが「楽しかった」ということだけは鮮明に覚えております。後にその研修会

が全曹青主催だったことを知り得ました。現代は少子化や核家族化が進む中、多様な人間関係の中でたくましく育つという環境から変化し、我慢や辛抱といった言葉が死

語になりつつあります。今を生きる子どもたちの将来の為に、特にお寺に生まれ仏飯をいただき成長した寺院子弟が、寝食を共にする機会を作りたいと強く願いました。

その想いを胸に私は全曹青第20期会長に立候補し、創立40周年という節目にあたり、この全国徒弟研修会の開催を切望した次第です。

当初はタイ王国での現地研修会を企画いたしましたが、政情不安により断念せざるを得ませんでした。それでも、何とかして徒弟育成の機会を、グローバル化する仏教界の中において有為な人材となることを目的とした海外青年仏教徒との交流機会を作りたいと切願していた所、大本山總持寺二祖峨山韻碩禪師650回大遠忌を迎えたご本山に於いて、私どもの企画を受け入れて下さるという大変有難いご法縁を頂戴することになりました。まさに仏天のご加護ともいいくべきこのご縁は、言葉では言い尽くせないものでした。全国へ宗勢を拡大し、数多くの弟子を育成された峨山禪師の想いが宗門の未来を担う徒弟たちをご本山に結集させたのかもしれません。また、多く師から頂戴した「失敗を恐れず大いなる足音を響かせよ」という、峨山禪師より脈々と相承されてきたお言葉を思ひ返しました。そして、そのご恩に報いるために全曹青第

音を響かせることを誓いました。

また、私どもの企画を全て快く受け入れて下さり、三

松閣の開放はもとより食事や宿泊全てをお引き受け下さいましたこと、心より感謝申し上げます。各関係の諸役寮様や大遠忌局諸老師がたにおいては、親身になつて相談に乗つてくださいましたこと重ねて御礼申し上げます。

さらに、世界仏教徒青年連盟から参加いただいた海外青年仏教徒各位にも感謝申し上げます。積極的に国際交流にご協力いただき、国内参加者にかけがえのない思い出と今後の無限に広がる可能性を示唆して下さいました。貴重な時間を共有できたことを感謝いたします。

今回の研修会開催にあたり、ご指導ご協力いただきました曹洞宗宗務庁様はじめとする関係各位、趣旨にご賛同いただき参加者募集に協力して下さった皆様、そしてご子弟を参加させて下さったお師匠様・ご家族様にも心より感謝申し上げる次第です。

未来への「種蒔き」として発願したこの全国徒弟研修会では大祖堂前に能登峨山キリシマを植樹しました。そして紫雲臺猊トより頂戴した「三本の木」を通して、「種から苗」へと成長いたしました。そしてまた、その苗にはアジア諸国に於いて相承されてきた篤い仏教信仰が養分として注がれました。参加者の心の中に植えられた苗は、きっと大きく成長し、花を咲かせ、実を結ぶでしょう。10年後には太祖瑩山禪師700回大遠忌に今回の参加者たちが携わることを切に願い、あらためて関係者皆さま方の法体堅固・福寿長久をご祈念申し上げ、全国徒弟研修会のご報告と御礼とさせていただきます。誠に有難うございました。合掌

20期関係者一同が一致団結し、未来へ向けての大きいなる足

全國曹洞宗青年会第二十期会長 櫻井尚孝

九拜



昨

年6月より開催を重ね、2月10日に5回目を行った味来食堂であるが、まず本事業が盛会の裡に回を重ね、さらには曹洞宗宗務庁の協力のなか、次期（第21期）の継続事業となつたことは、実行委員長として何よりの成果と考えている。全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）は2年毎の断絶しだすではなく、継続し事業を重ねてきた歴史の中に存在しなければならないことは、会の運営に携わってきた諸先輩諸老師皆様の最大の願いであると思つ。

次に実際の事業運営であるが、募集・告知に関しては、Facebook広告を利用し、その効果の大きさに驚いている。紙媒体の広告から、WEB広告へと募集・告知のスタイルが変遷するなかでの実験的な試みであつたが、この募集・告知スタイルが有効であり、かつコストパフォーマンスに優れていることを実感した。また各回ともにFacebookを利用したりアルタイムでの事業紹介により、多くの方々に情報を提供できたことは、全曹青HP『般若』及び『全曹青facebookページ』に一定の価値を付与できたものと考える。

事業スタイルとして小規模施設での開催が効果の面から懸念されたが、実際には参加者一人一人に十分な説明を施せる部分は成功であったと考える。創作的なメニューについては評価を受ける一方、「本格的な精進料理」を求める声も少なくはなかったことは、今後大きな課題である。全体的には



**全曹青
レポート**

ZENSOSEI 20th

全5回の『味来食堂』を終えて… 精進料理への社会的ニーズを確認 「大衆教化の接点」を求めて継続を

本事業が、全曹青の事業方向に選択肢を増やし、周年事業の理念である、「全国曹洞宗青年会がより社会に資する団体たるべく」に合致した事業であり、「大衆教化の接点」を求めた事業を遂行できたことを感謝したい。

40周年記念事業実行委員会
荒木道宗委員長



対談

全曹青／相承のとき／



櫻井尚孝第20期会長 ×
(静岡第三同志会)



安達瑞樹第21期会長
(兵庫県第二宗務所青年会)

全曹青第20期もこの5月をもって、第21期に引き継がれます。この相承の節目を前に、現会長と新会長にそれぞれ心に去来する想いを語つていただきました。

全国徒弟研修会で感じた大きな喜び

櫻井尚孝（以下、櫻井） 会長予定者としての1年を加えると、3年間に亘り取り組ませていただいた「全国徒弟研修会with国際子ども禅のつどい」（以下、全国徒弟研修会）が、お蔭様で無事円成いたしました。何より、参加いただいた徒弟の皆さんのが大変喜んでくれたということが、最大の法悦です。

安達瑞樹（以下、安達） 印象深かったのは、「両箇の月 震災慰靈法要」での、三重県曹洞宗青年会和太鼓集団『鼓司』の演奏をキラキラした目で見ていた子どもたちの姿です。こんなお坊さんもいるのかという感動の眼差しでした。大本山總持寺の大衆の皆様にとても良い刺激になつたようですし、それそれが自身の未来を見つめる時間になりました。

海外青年仏教徒の方々と一緒に時間を共にできることは大変意義深かったです。



「全曹青の組織力を再確認した20期」

櫻井 更に、第20期参加者ほぼ全員が寝食をともにし、委員会の枠を越えて交流を深めた点も意義深かったです。本期は、40周年記念事業という大きな軸の中で、各位が

それぞれ役割を果たし、密に連携して取り組むことができたと感じています。

全曹青の底力・組織力が發揮された全国徒弟研修会

櫻井 この3月は、禅文化学林四国大会、東日本大震災慰靈法要、そして全国徒弟研修会という3つの事業がありましたがあ

らためて全曹青の組織力を感じました。それに大本山總持寺の器の大きさと役寮諸老師、大遠忌局局員諸老師、大衆の皆様のお力が組み合わされたからこそその大円成だと思います。また、本期スローガン『繋がる想いが未来を拓く』の「つながる」というキーワードが、大本山總持寺御両尊大遠忌のスローガン『相承』と合致していた点に、何よりも「縁」を感じました。「先人から脈々と受け継がれてきたものをつないでいくということ。そして、それを未来につないでいくことの大切さ」を伝えたいという想いが、この全国徒弟研修会で結実しました。

安達 ふりかえると、全国徒弟研修会は「未来につなげるため」の事業であったと思います。植樹や、大祖堂で紫雲臺猊下より直接絡子・数珠をいただいたという経験は、子どもたちの未来へとつながります。

櫻井 我々が行ったのはあくまで種まきで

あり、そこから芽が出て花が咲くのはこれからです。長い目で見守っていきたいですね。9年後は太祖瑩山紹瑾禪師700回大遠忌にあたります。参加徒弟が様々な形でそれに関わってくれれば大変うれしいです
ね。

『大衆教化の接点を求めて』の くまづばら雄進

櫻井 来期にどのようなビジョンをお持ちですか？

安達 被災地での支援活動や「味来食堂」や「福島こども自然ふれあい広場」などのように、一般の方と接点を持つことのできる事業に積極的に取り組んでいきます。

櫻井『大衆教化の接点を求めて』という、全曹青の活動方針にも合致することだと思いますので、是非推進していくいただきたいです。

安達 私たちの活動は、多くの人々に影響を与えると考えます。それは、自己の研鑽を積む行動すべてです。昨年の各地で発生した豪雨災害では、多くの青年僧侶が被災地へ赴き、泥かきや炊き出しを行いました。「味来食堂」は、一般の方々と料理を通して一緒に学ばせていただきました。どちらも、青年僧侶の真剣な姿が多くの人々に感動を与えたと思います。「観世ふおん」もまた、電

「社会との接点を継続探求する21期に」

安達瑞樹師

全曹青は年代や地域を越えて同志が結集できる場所である

櫻井 私は一昨年の6月に開催された委員会総会において、「私は全曹青という組織が

大好きです」とお話をしました。全曹青の魅力は、年代や地域を越えて、志を同じくする

貴重な傳説が絶対であると思ふ。これが、お相手の寺院や地域寺院とのお付き合いだけでは得られない。

たいということに対し、前向きな意見を
ぶつけでもうえる。それが自分の成長にも

つながり、視野が広がる。「皆と一緒に一つのことを為し得た時の感動を共有できる実践

の場であれ修業の場」でした

で、自己の研鑽となり、やがてこの経験が
吾の活動に發揮される二三の重宝なり。

曹青会に還元していただきたいですね。

曹青会に還元していただきたいですね。

な取り組みがあると良いですね。また全曹
青40年の歴史の中では、多くの方がたとの
タテのつながりがありました。つむがれて
きたそのつながりをもう一度再点検し、改
めて連携を模索しても、と思います。何と
り宗門には系列の高校や大学、各地の専門
僧堂があります。そのつながりも大いに生
かす必要がありますね。



あの日から4年。綴る想い。繋がる想い。

東日本大震災慰靈行脚・法要・点描

【平成二十七年三月十日】
宮城県角田市　自照院様にて

平成27年3月10日前午11時より、全曹青の東日本大震災復興支援活動の拠点となつた、宮城県角田市曹洞宗自照院境内の「活動の灯」前において、東日本大震災慰靈法要が厳修されました。



ともに、復興支援活動の今後のさらなる継続を誓いました。

事長を導師に、寿量品偈をお唱えの後、日蓮宗式の加持祈祷をお勤めされ、再び慰靈と復興を祈願いたしました。

福島県伊達市　成林寺様にて

平成27年3月10日午後2時40分、全国曹

洞宗青年会の安達瑞樹副会長を導師に、福島県伊達市成林寺境内の納経塔前で東日本大震災慰靈復興祈願法要が厳修されました。午後2時46分に合わせ黙祷を行い、般若心経と普門品偈をお唱えし、犠牲者の慰靈と被災地の復興を祈願。その後、全国から寄せられた写経を納経いたしました。

統いて、全日本佛教青年会の伊東政治理

主催・全国曹洞宗青年会共催で、4年前の東日本大震災において津波による多大な被害に遭われた宮城県石巻市を中心の大川地区・北上地区・雄勝地区の全3班に分かれての慰靈行脚、並びに遺族会主催の大川小学校追悼法要が開催されました。

【平成二十七年三月十一日】
宮城県石巻市にて

平成27年3月11日、宮城県曹洞宗青年会

主催・全国曹洞宗青年会共催で、4年前の東日本大震災において津波による多大な被害に遭われた宮城県石巻市を中心の大川地区・北上地区・雄勝地区の全3班に分かれ

ての慰靈行脚、並びに遺族会主催の大川小

学校追悼法要が開催されました。

午前11時に全国から55人の僧侶が石巻市

海藏庵別院に集合し、海藏庵・高源院・北

上市役所跡地を出発地点とし、旧大川小学

校までの道程を龍谷院・観音寺・釜谷靈園・

天雄寺旧本堂跡地で慰靈諷経をお勤めしな

がら慰靈行脚を修行。当日は低気圧の影響

で強風吹きすさぶ中での行脚となりました。

大川地区を行脚した班は、途中海岸で各地

からお寄せいただいた多くの「亡き人への手

紙」をお焚き上げ供養いたしました。

導師を安達瑞樹全曹青副会長が勤めたほか、全曹青有志が法要の各配役を担当。自照院錦織文悦御住職、自照院梅花講の皆様にもご参列いただき、震災で亡くなられた方がたの慰靈、被災地の早期復興の祈念と



守り伝えられし大切な伽藍、
私どもの技と経験がお役に立てれば幸いです。

社寺建築のカナメ

新築・改修・屋根工事・耐震



<http://www.caname-jisha.jp>

■本社 栃木県宇都宮市平出工業団地38-52 電話：028-663-6300
■名古屋支店 愛知県一宮市森本4-15-23 電話：0586-71-2882
■岡山営業所 岡山県岡山市北区今8丁目13-13 電話：086-245-2541

午後2時30分には全班行脚を終え、旧大川小学校で合流しました。小学校にはすでに多くの方が慰霊碑や小学校跡地に向かって手を合わせておられました。地震発生時刻の午後2時46分には追悼のサイレンが吹鳴され、その音に合わせて黙祷の後、大川地区のご住職様方主導のもと法要が開始され、参加者の方がたは亡き人への想いを込めて焼香されました。



岩手県釜石市 常楽寺様にて
平成27年3月11日午前11時より岩手県釜石市常楽寺において、藤原育夫住職導師のもと、約100人程参列され東日本大震災慰靈法事が厳かに行われました。

遺族会会長の挨拶の中で、震災から4年を迎えても遺族の悲しみは今もある頃のままお話をになりました。参加者はそれぞれ震災の日を振り返り、被害に遭われた方がたへの哀悼の意と、今後災害における被害を少しでも抑えられるように深く心に刻み込みました。

岩手県山田町 龍泉寺様にて
平成27年3月11日午後1時より、岩手県山田町龍泉寺境内の全曹青「活動の灯」前において、膝館晋哉全曹青副会長を導師に迎え、強風吹きすさぶ中、東日本大震災慰靈法事が行われました。引き続き本堂へ移動し午後1時半より当寺住職の石ヶ森桂山師が導師を務められ略歎仏が厳修されました。

参列された約50人の方がたはそれぞれの想いを胸に焼香され、午後2時46分には一同合掌にて犠牲となられた多くの方がたへ

静寂がより引き立つ程の凜とした御詠歌奉詠に始まり、導師法語では「慘状耐え難く湛涙愴然たり」と当時の心境を思い出すかのように述べられ一心に務められました。



藤原師は「当寺は震災当初に無事御本尊様を取り出すことができ、お檀家の方方がたが仏さまと一緒に安心して本堂で手を合わせていただけるように」とお話され、震災より4年の歳月を経て本堂再建を報告されました。

福島県南相馬市

「3・11被災地巡礼による慰靈法要」

平成27年3月11日午前8時半より、隣県

曹洞宗青年会会員も参加する中、福島県の相双地区5カ所を巡り、慰靈法事が厳修されました。晴天とはいえ強風に見舞われる中、相馬郡新地町龍昌寺、相馬市原釜尾上海水浴場、南相馬市鹿島区烏崎、南相馬市



原町区萱浜綿津見神社、浪江町請戸地区的順に巡礼し、一部会場では一般の方がたにもご焼香いただきながら、震災物故者に供養の誠を捧げました。

追悼の意を表し、ご冥福を祈り1分間の黙祷を捧げました。

全国曹洞宗青年会 電話相談事業『観世ふおん』

青年僧侶による電話相談



ご家族のことや仕事や生活のことなど誰にも言えないあなたの不安や悩みを、私たちが受けとめます。どんな些細なことでも構いませんのでお電話にてご相談ください。

毎週日曜日の夜 22:00~24:00 「個人の秘密」「ご相談の内容」「個人情報」は厳守いたします。
相談は無料です(通話料のみ)。*匿名でのご相談も可能です。

電話番号① 080-1546-7464 | 電話番号② 080-1547-5646

両大本山御用達 梅花流法具販売指定店

法衣・装束・莊嚴・神仏具・贈答用記念品



株式会社 梅金商店

(全国曹洞宗法衣同業会会員)

〈本社〉〒460-0011 名古屋市中区大須三丁目39番33号

(大須交差点東北側)

TEL(052)241-0901(代表) FAX(052)241-1904

本

年上巳の節句、この度四国地区曹洞宗青年会は全国及び四国ともに創立を記念し、禅文化学林四国大会を開催いたしました。

いま私達が中心とする活動は、東日本大震災発生から被災地へ赴く他、今年4回目の開催を目指す『こども自然ふれあい広場』を開催する等、復興支援活動がその中核を成し、今大会はその発展型です。

手塚治虫原作ミュージカル『ブッダ』の招致は、彼の震災以来、肉体的にも精神的にも疲弊した人びと、苦悩の末に光明を見出された釈尊の道程とを照らし合わせご観覧いただくことで、広く一般の方々の心の灯としてお受取りいただきたいとの思いからです。ご公演される劇団わらび座は自らも東北に拠点を置いており、奇しきゆかりが同じ思いの中制作されました。

公演に先立ち1,200人を超える来場者とともに『般若心経』を唱え慰靈法要を厳修、莊厳な雰囲気の中公演は始まりました。言わずもがなの釈尊のご生涯ですが「何故生まれた?」「生きるとは?」「なぜ生まれた?」というエゴに苦しみながら生きる民のために真理を説き、私達はともに生きる同朋など、大迫力の中にも慈愛溢れる壮大なテーマで巧みに描かれた作品は観衆の涙を誘い、泡立つ感動を覚えながら万雷の拍手の中幕を閉じました。また会場ロビーではこども自然ふれあい広場、全曹青の復興支援活動の様子をパネル展示しました。

全曹青
ポート



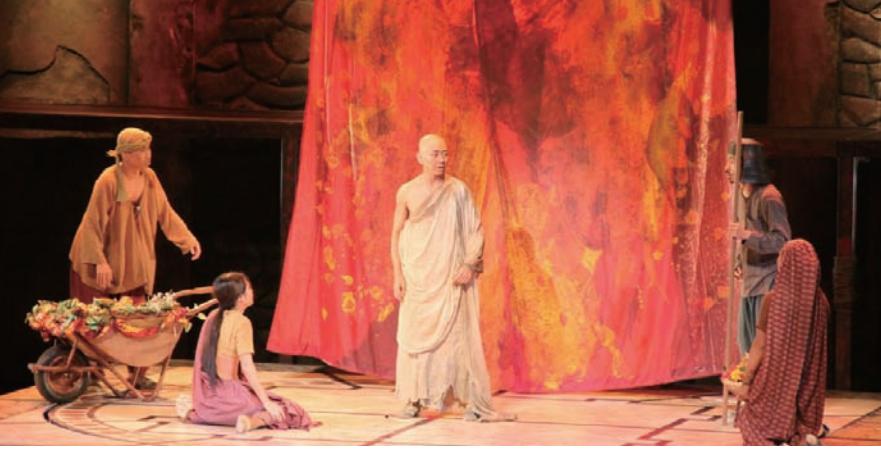
ZENSOSEI 20th

なかんずく本事業は今もなお、約23万4千人の方がたが避難生活を余儀なくされている現実と、その影響の中、震災後に亡くなられた方がたへの回転趣向として、『ブッダ』観覧が即ち復興支援に繋がる(全ての事業収入を支援に活用)仕組みとし、ともに生きる意志とします。

翌日は主に「お坊さんと一緒に考える復興支援のあり方」と題し、日本ファシリティーション協会の進行でグループ討議を行いました。大学生を含む一般の方がたと円卓で各班に分かれ、今後罹災した時の具体的な行動とは、僧侶に求める事とは等、時には分班してお互いの意見を共有しました。大学生の印象的な言葉として、我々僧侶が被災地へ赴き復興支援を行う他、真剣に今後如何に想定し行動すべきかを協議するなどとは露程も知らなかつたというものでした。陰徳の行を旨とする私達ですが、このたび得た多くの課題を徒や疎かにせず、地域密着の中にも愚の如く魯の如く、各々が更に広く主中の主として邁進しなければと感じ入りました。

最後に二日間の日程を無事円成の裡に終えることができましたのも全曹青執行部は勿論、全国各曹青よりの貴重なる出捐の賜であり、彼の来処を量るところであります。この場をお借りして篤くお礼申し上げます。

四国地区曹洞宗青年会会长 上本英昭



禅文化学林四国大会開催 「生きるとは?」「なぜ生まれた?」 ミュージカル『ブッダ』で共有広げる



第14世ダライ・ラマ法王を迎えて 曹洞宗岐阜県青年会創立四十周年特別記念講演 「思いやること、許し合うこと、互いを敬うこと」



加盟団体 活動 レポート

平

成27年4月8日、曹洞宗岐阜県青年会（以下、曹岐青）創立40周年の記念

事業として第14世ダライ・ラマ法王特別記念講演を岐阜市長良川国際会議場において開催いたしました。

第21期事務局のスローガンである「あまねく人に伝えたい、よき僧であるために」

の元に記念講演当日は「仏教に出会えてよかつた、花まつりに集う仏法僧」と題し、約2300名の参加者の皆様へ「思いやること、許し合うこと、お互いを敬うこと」人間として最も大切なことについて、仏教のみ教えよりご講演をいただきました。

第一部の花まつり法要は予定通り午後1時30分よりオープニングムービーに釈尊の生涯より、曹洞宗の歴史そしてチベットを始めとする世界各地へ仏教が広がり2500年の時を経て、この日に第14世ダライ・ラマ法王と私たち曹岐青青年宗侶が初めて出会うというところから始まりました。参加者園児による献灯献花の後、厳かな雰囲気の中、曹岐青並びに管区各曹青の皆様と法王をお迎えいたしました。当日までの打ち合わせで法王はひざを痛めているので、礼拝は難しいとお聞きしていましたが、誕生仏を前に五体投地をされるその姿に思わず胸があつくなる思いでありました。

また読経中の園児による甘茶かけでは法王自ら園児一人ひとりの頭を優しく撫でるその姿に、思わず会場からは笑顔や安心の歓声があがり、厳かな法要のなかに暖かなひと時を感じることができました。

第一部の記念講演では花まつりに集う仏僧より三宝帰依について、また聞思修の実践こそが仏教徒としての勤めであることを中心的に説かれました。詳細につきましては本会ホームページより当日の講演内容につきましてライブテキストとしてご確認をいただくことができます。

今回の記念講演を通してダライ・ラマ法王を岐阜の地に招聘し、釈尊のみ教えが2500年の時を経て相承され、法王と参加者全員が一つにつながるこの記念講演を運営・開催したことの大変な意味があります。同時に、この日を迎えるまでの日々を、青年僧侶一人ひとりが「今日しかない、今しかない」と勤めてきた過程は私たちにとってかけがえのない、何事にもかえがたい、生涯忘れぬ宝となりました。

結びとなりますが記念講演の無事円成に、ご支援いただいた皆様に心より感謝申し上げ曹岐青創立40周年特別記念講演のご報告とさせていただきます。

曹岐青第21期会長 宮崎誠道
記念講演実行委員長 宮本覚道



曹洞宗岐阜県青年会 HP
<http://www.sougisei.com/>

全国曹洞宗青年会の活動は皆さまの賛助費に支えられておりま
す。この度もご協力いただき誠に有難うございました。

31	喜雲寺	100	澄月寺	様	●山形県第3		162	祥雲寺	様	●北海道第2
43	中興寺	112	法蓮寺	様	468	宗傳寺	様	180	龍泉寺	様
52	福藏寺	115	心月寺	様	641	宝泉寺	様	212	靈仙寺	様
89	王泉寺	119	大安寺	様	652	青陽院	様	237	龍泉寺	様
120	普生院	122	法林寺	様	671	海禪寺	様	265	倫勝寺	●北海道第3
123	宝城寺	183	大乘寺	様	734	東光寺	様	321	鏡得寺	175 大悟寺
124	西光寺				740	長應寺	様			331 潮音寺
158	願成寺		●山形県第1					●北海道第1		
186	大光寺	81	金勝寺	様	●秋田県		18	高聖院	様	
224	普門寺	224	長泉寺	様	17	補陀寺	様	39	正覺院	
252	柳玄寺	242	定泉寺	様	26	洞泉寺	様	69	大林寺	
290	長泉寺				76	藏堅寺	様	90	含笑寺	
		●山形県第2			79	東林寺	様	96	觀音寺	
	●青森県	315	永泉寺	様	83	大泉寺	様	456	大昌寺	
30	永泉寺				90	正乘寺	様			

ボランティア基金感謝録

平成27年1／1～3／31取扱い分

贊助費浄納御芳名簿

平成27年1/1~3/31取扱い分

●東京都	●静岡県第1	●岐阜県	●広島県	●長野県第2
25 慈眼院 56 嶺雲寺 177 清巖寺 232 菩提寺 252 観音院 311 妙光院 327 新福寺 藤原敦正様	1 顯光院 2 瑞光寺 109 玉泉寺 127 楠巖院 148 源光院 194 福聚院 388 林叟院 391 十輪寺 394 萬松院 461 心岳寺 464 正泉寺 556 信香院	28 観音寺 33 昌運寺 38 最勝寺 219 勝林寺 239 慈眼寺	13 延命寺 46 雙照院 63 長福寺 93 賢忠寺 115 醫光寺 124 安樂寺	400 長久寺 421 青原寺 595 檜校庵 603 長性院
●神奈川県第2	●静岡県第2	●三重県第1	●山口県	●福井県
14 傳心寺 18 寶泉寺 56 宗泉寺 184 龍鳳寺 長樂寺	240 医王寺 317 弘誓寺 332 龍雲寺 362 福泉寺 368 曹洞院	4 東陽寺 7 海藏寺 24 一心院 36 法安寺 38 傳法寺 83 凉泉寺 166 陽光寺 183 光德寺 240 安心寺 269 大蓮寺 275 龍祥院 276 地藏院 305 傳法院 316 劍光寺 350 安樂寺	4 宝藏寺 25 弘濟寺 86 興元寺 190 亨德寺 213 高林寺	27 龍澤寺 162 正明寺 196 空印寺 197 洞源寺 305 向福寺
●埼玉県第1	●静岡県第3	●鳥取県	●島根県第1	●新潟県第1
116 梅田寺 434 安養院	607 石雲院 766 正法寺 852 東泉寺 868 龍巣院 959 智恩斎 1208 法雲寺 1210 雲江院 1215 藏泉寺 1228 栄林寺 1231 長養寺	408 東正寺	231 岩瀧寺	368 正通寺 382 光照寺 389 雲居寺 390 東禪寺 412 甑昌庵 415 龍昌寺 475 天昌寺 503 龍源寺 768 大仙寺
●埼玉県第2	●静岡県第4	●三重県第2	●島根県第2	●新潟県第3
206 荣林寺 207 蓮光寺 256 豊泉寺 260 長光寺 345 成安寺 371 千手院	1099 宿蘆寺 1177 礼雲寺	●京都府 222 久昌寺 236 善光寺 367 福昌寺 372 雲龍寺 374 等榮寺 389 万福寺	55 清見寺 58 洞光寺 63 龍覺寺 111 万藏寺 141 本願寺	535 普光寺
●群馬県	●愛媛県	●大阪府	●島根県第4	●新潟県第4
167 祥雲寺 233 明言寺 280 長樂寺 281 永隣寺 292 光嚴寺	146 興雲寺	10 梅旧院 26 天徳寺 31 正泉寺 38 慈願寺 56 南昌寺 69 永興寺 104 拾翠寺	111 洞田寺 158 報恩寺	1 龍雲寺 19 林照寺 38 興泉寺 44 百觀音院 212 太總寺 285 大伝寺 296 関泉寺 814 地藏院
●栃木県	●愛知県第1	●福岡県	●福島県	●福島県
52 傑岑寺 167 興福寺	7 全香寺 82 成福寺 101 成福寺 112 太平寺 127 龍潭寺 158 秀傳寺 200 日光寺 208 日光寺 292 高雲寺 313 長松寺 336 弥勒寺 371 建宗寺 605 天徳寺 635 永澤寺 1092 地藏寺 1229 玉林寺	111 洞田寺 158 報恩寺	41 石雲寺 42 龍泉寺 94 松藏寺 101 成林寺 110 龍徳寺 111 善光寺 168 清光寺 226 常隆寺 266 洞雲寺 289 弘源寺 370 秀長寺 461 正法寺	
●茨城県	●奈良県	●大分県	●長崎県第1	●宮城県
2 天徳寺 39 常安寺 119 釣船寺 157 孝顕寺 182 龍心寺 197 長龍寺	101 成福寺 112 太平寺 127 龍潭寺 158 秀傳寺 200 日光寺 208 日光寺 292 高雲寺 313 長松寺 336 弥勒寺 371 建宗寺 605 天徳寺 635 永澤寺 1092 地藏寺 1229 玉林寺	68 景徳寺	78 宝泉寺	87 明川寺 149 喜松院 228 瑞川寺 324 光巖寺 359 保昌寺 387 福田寺 440 城國寺 475 城皇寺
●千葉県	●愛知県第2	●佐賀県	●熊本県第2	●岩手県
7 満藏寺 12 高根寺 21 観音寺 29 慶林寺 45 大洞院 76 全宅寺 95 寶應寺 272 永泉寺 315 雲龍寺	684 花井寺 813 全久院 893 法藏寺	30 岡本寺 375 金剛寺 413 吉祥寺	34 荘藏寺 194 普恩寺	13 長善寺 21 恩流寺
●山梨県	●愛知県第3	●岡山県	●長野県第1	
162 法久寺 280 円通院 458 自性院 555 自元寺	428 寶珠院 431 報恩寺 512 清涼寺	3 長川寺 131 済渡寺 146 養源寺	243 廣徳寺 587 觀音庵	



現代的講モデルの探求 最終回 「Talkin' About」に見る現代的「縁」モデル



山納 洋氏

1993年、大阪ガス(株)入社。
神戸アートビレッジセンター、扇町ミュージアムスクエア、メビック扇町、(財)大阪21世紀協会での企画・プロデュース業務を歴任。
2010年より大阪ガス(株)近畿圏部において地域活性化・社会貢献事業に関わる。

長岡／山納さんが「Talkin' About」を育んだ「扇町ミュージアムスクエア」
長岡／山納さんが「Talkin' About」を始めたきっかけを教えてください。

山納／私は大阪ガスの社員として、かつて「扇町ミュージアムスクエア」(以下、OMS)という小劇場を核にした複合文化施設に勤務していました。OMSに演劇や映画に関心のある人のみなならず、いろんなジャンルに関心がある人に集まつて欲しいと考える中で、フランスで行っていた「哲学カフェ」に着目したんです。「哲学カフェ」は、若者から高齢者までの様々な人たちが立場を超えてカフェに集い、哲学的なテーマに

上げに加わった、日替わり店主システムによる「common cafe」におひで、トーキングサロンへ「Talkin' About」になりました。また、これまで手掛けた場についてインタビュー取材を行いました。氏がその立ち

本連載も最終回。そのあり方を考えていく上で大きな示唆を与えてくれることを期待し、大阪市において「人と人が出来う場づくり」を実践している「common cafe」代表・山納洋氏を訪ねました。氏がその立ち

上げに加わった、日替わり店主システムによる「common cafe」におひで、トーキングサロンへ「Talkin' About」のコハセプトはどうの

長岡／「Talkin' About」のコハセプトはどうなものですか？

長岡／山納さんが「Talkin' About」を始めたきっかけを教えてください。

山納／私は大阪ガスの社員として、かつて「扇町ミュージアムスクエア」(以下、OMS)という小劇場を核にした複合文化施設に勤務していました。OMSに演劇や映画に関心のある人のみなならず、いろんなジャンルに着目したんです。「哲学カフェ」は、若者から高齢者までの様々な年代の人たちが立場を超えてカフェに集い、哲学的なテーマに

ついて話し合いを行うのです。私たちはその「哲学カフェ」を、OMSに多様なジャンルに関心のある方に集まつてもらおうべく「雑学カフェ」としてアレンジし、「扇町Talkin' About」へという取り組みを始めました。

長岡／「Talkin' About」のコハセプトはどうの質を重視して行いました。そのサロンは、言うならば「同好の士」を探し、語り合う場です。OMS内のカフェや個人が経営するバ

マについて、主宰者(ファシリテーター)の進行で参加者同士が時に情報を発信し(語り)、時に受信する(聴く)場となりました。 「Talkin' About」は一人一人の知識や想いを披瀝し、シナジー、つなぐ場

長岡／「Talkin' About」の運営をする上で気を付けていらっしゃることはありますか？

山納／主宰者を務めていると、集まつた人たちは全員に気を遣いつつ、2時間ほどの話をし合いである程度有意義なものにするとい

う、ファシリテーション能力が要求されます。参加される方を見ていると、「喋りたくて喋る人」「喋りたいけれど喋るのが上手くない人」「ただ聞いていたい人」の3つのタイプにだいたい分かれますが、それできるだけ見極めて、うまく会話を回していくと、どうテクニックが、場数を踏んでいくうちに身につけてきます。まずは話題提供(約25分)をし、その後、参加者から3分ずつその感想を話してもらいます。いわば全員の知識や想いの「棚卸し」ですね。ある回では「Talkin' Aboutのつくり方」と題し、20人に5つのテーマをあげてもらい、その中から興味を持ったテーマをそれぞれ1つか2つ選んでもらいうと、することもやりました。これは、フランスの文化人類学者クロード・レヴィ=ストロースの「ブリコラージュ」(寄せ集めて自分でつくる)の場ともいえます。みんなが持ち寄ったものを、各人が寄せ集め、つなぎ合わせるわけです。

カフェは創発の場であり
人つながる可能性のある場

長岡／「Talkin' About」のコハセプトを教えてください。

山納／日替わり店主たちが「みんなで共有するカフェ」です。個人で開業を目指してい



第2回 世界仏教優秀指導者賞2015 全日本佛教青年会と松岡広也師が受賞

第

2回世界仏教優秀指導者賞の表彰式が、2015年3月5日タイ王国のノースバンコク大学で執り行われました。

この表彰式は、各国の仏教団体で活動する僧侶・在家仏教徒・仏教団体を対象として、その献身的な活動を顕彰し、今後ますます仏教が世界中で隆盛することを願い、タイ王国国家仏教事務局と世界仏教徒青年連盟(WFBY)が主催したものです。昨年初めて開催された第1回表彰式では、全日本佛教青年会から、坂本觀泰顧問、伊東政浩理事長と村山博雅直前理事長(全国曹洞宗青年会顧問)が受賞しました。

今回の第2回表彰式では、受賞者の代表として、先ず、カンボジア王国僧団王・プレー・アッガマハーサンガラージャーディパティ・テープウォン猊下に、タイ王国僧団王代理・サンガ大長老会議議長・ソムデット・プラ・マハーラーチヤマンカラーチヤーン猊下よりトロフィーが授与されました。続いて、世界中から選出された僧侶51名、在家仏教徒72名、仏教団体7団体とともに、日本から選出された全日本佛教青年会並びに松岡広也師(全日本佛教青年会監事・全国曹洞宗青年会顧問)が受賞し、トロフィーと表彰状、記念品が授与されました。

日本国内では2020年の東京オリンピックを迎えるにあたり、国際化の機運が高まっていますが、仏教界においても3年後の2018年には、世界仏教徒連盟・世界仏教徒青年連盟の世界大会を日本で開催することが決まっており、全日本佛教青年会ではここ数年、世界大会の準備を念頭に置いて、国際交流事業に力を注いでいます。それと並行して全日本佛教青年会の加盟団体である全曹青も、第19期の松岡広也師が会長在任時に国際特別委員会を設置し、世界仏教徒青年連盟の事業に積極的に参画していました。新たに発足する第21期では、一人でも多くの全国の会員諸兄が国際事業に携わることができるように、「国際委員会」を設置し、全曹青の活動の大きな柱の一つとして、時勢に即した幅広い国際事業を開していくところです。

そのような経緯の中で、昨年の村山博雅師に統いて、今年も松岡広也師が世界仏教優秀指導者賞を受賞したことは、全曹青にとって、その活動の大きな転換期にさしかかっていることを予感させる出来事あります。松岡広也師の今後のさらなる活躍を祈念いたします。

インターフェイス駅伝2015 in 京都

東日本大震災犠牲者への祈り携え 全曹青メンバーもタスキつなぐ走り

2 015年2月15日(日)、「京都マラソン2015」が開催され、全国曹洞宗青年会は、昨年に続き「InterFaith駅伝2015」に全日本仏教会を通じ参加。全

曹洞宗岐阜県青年会の山守隆弘師の5人が、それぞれ担当の約10kmを走り、祈りのタスキを繋ぎました。

InterFaith駅伝の京都マラソン併催は昨年に続き2度目。日本・世界から集まつた40人の宗教者が10チームに分かれましたが、競争ではなく「宗教間でタスキを繋ぐ」として、世界平和を京都から発信することを目指しています。また、京都マラソンの主目的の一つでもある「東日本大震災復興支援」に賛同しています。

繋がる想いが未来を拓く
相連的感懷開拓未来
Connecting the world with loving kindness
opens the door to our future.
Die Welt Verbinden mit liebevoller Güte,
öffnet uns die Tür zur Zukunft.
www.ziubecu.dobroto

前日の2月14日には、15時からホテル本能寺西館で事前説明会が開催され、引き続き本能寺本堂に移動し、法要「祈りの時間」が本能寺菅原日桑貫首を導師に勤められ、翌日の駅伝に参加する様々な宗教家が、国を超える宗教を超え、ともに平和を願い、併せて東日本大震災犠牲者への鎮魂と復興を祈りました。菅原貫首は法要後に「平和とは何か」を参加者に問い合わせられ、自ら英語で海外からの参加者に語られました。また、門川大作京都市長も大会前日の多忙な中、法要に参加され、「平和と宗教と文化の都市である京都から、祈りの力によって世界の平和に貢献していきたい」と、InterFaith駅



京都マラソン当日は16,000人を超えるランナーが京都市内を駆け抜ける中、

文／広報副委員長 宮入真道

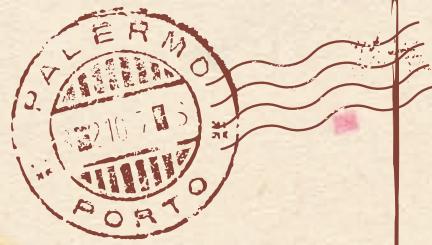
InterFaith駅伝参加者も紫色のゼッケンと黄色のタスキを身に着け、共に走りました。黄教・神道・新宗教・キリスト教・イスラム教など多くの宗教がタスキリレーを行う姿に、沿道の観衆や参加ランナーからも応援の声が上がり、InterFaith参加者からもフルマラソンを走る参加ランナーに大きな声で声援を送っていました。

IS(「イスラム国」を名乗る過激派組織)が日本を標的とする報道される中での開催であり、開会式が行われた西京極陸上競技場では観衆全員に手荷物検査や金属探知を行うなど最大限の警戒を行う中での開催でした。だからこそ、宗教が本来人々の幸せを願うものであり、菅原貫首が語られた「お互いを認め合い支え合う小さな平和が、大きな平和となる」思いを京都から発信することに大きな意義を感じる駅伝でした。この駅伝が年1回の行事だけではなく、宗教同志をつなぐ「ヨコの糸」となり、共に平和への歩みを進められる一歩となることを期待いたします。





災害復興支援部 ニュースレター



継続的な活動にこそ意義あり

平

成23年3月11日、東北、関東の沿岸部

広大な東北地方で活動を続ける
のは「お寺にいることが当たり

前の」と思われている宗侶にとつて
簡単なことではありません。し
かしながら、それでも続けるこ
とができた、続けなければなら
ないと思えたのは、目の前に困つ
たやはり宗侶であるからです。

島県伊達市成林寺様に『全曹青災害復興支援
部』が設置されました。その後、現地本
部は新たに『曹洞宗東日本大震災災害対策本
部復興支援室分室』が福島市内に移管され、
活動の拠点となりました。

当初より第一の活動は、相手に寄り添う行
茶活動でした。避難された人々にとつて見ず
知らずの私達でしたが、お坊さんということ
でお話してくださる方が多かつたように感じ
ます。それは体育館などの大きな避難所でも、
その後移った仮設住宅でも同様です。また、
各市町村社会福祉協議会・行政・NPOなど
との連携も、お互いを尊重し合える関係を築
けるように努力してきました。研修会などに
も積極的に参加し、そこで得た人脈を頼りに
よりよい活動を模索してきました。

人が大自然の脅威に向き合う
とき、ことさら無常を感じるは
ずです。無常を感じるからこそ、
危険な土地だとわかつていても
戻りたくなります。これは東日
本に限った話ではありません。
近年、ゲリラ豪雨や大型の台風
が猛威を振るうことが多くなり、
全国的に自然災害が多発してお
ります。時期は多くの宗侶にとつ
て最も忙しい夏が多く、私達も
対応に苦慮しておりますが、ボ
ランティア活動に熱心な曹青会
の方々が数多く見受けられ、現地に赴かれる
姿に只々頭が下がるばかりです。

さて、私達が取り組んできた活動は多岐に
わたります。しかしながら復興支援活動とは、
目に見える成果を明示できるものでもあります
せん。時には現状維持のまま経過を見守るこ
とが最良の時もあります。そのような場面で
私たちが関わり続ける意義を見出すならば、
それは「継続的な活動」ではないでしょうか。
同じ日本とはいえ気候も風土も違い、中でも

毎年恒例となつた『ことども自然ふれあい広
場』では、各地のご寺院様や曹青会員様のご協
力をいただき、子どもたちの爽やかな笑顔に
触れることができました。開催地で関わる多
くの人々に、子どもたちの健やかな成長を願
う想いを共有していくだけたのではと思いま
す。

全曹青災害復興支援部は、今後も防災・減
災を念頭に支援活動に取り組むと共に、東北
での復興支援活動の担い手として関わり続け
ていきたいと思います。最後に私どもの活動
に際しまして、物心両面に亘り多大なるご協
力をいただいた皆様に心より感謝申し上げま
す。

文／庶務兼災害復興支援部事務局長



災害MLは全曹青ホームページ『般若』からご登録いただけます。http://www.sousei.gr.jp/

和貴 伊藤



全曹青40周年

全曹青の足跡を訪ねて（7）

全曹青は、1975年に発足し、今期に40周年を迎えるにあたって、改めて全曹青の成り立ちや規模、その想いや歴史を探つていく連載です。

第七期の発足

昭和62年度（1987年～88年）の第一回総会で、選考委員会により神野哲州会長を選出し第七期全曹青がスタートした。神野会長は第七期のスローガンとして「社会に繁栄する曹青作り」を以下のように掲げた。

一、「禅の集い」活動の充実

三、「曹洞宗ボランティア会」(現、シャンティ国際ボランティア会)の活動支援

二 全曹青としての活動
三、[曹洞宗ボランティア会]

以上を活動の基本姿勢として、「全青年宗侶の自覚・結束を促しながら青年宗侶としてなすべき社会的価値を持つ活動を開く、地区曹青とともに仏教の社会性向上を図りたいと思います」と所信表明の中述べられた。

■社会への対応

1970年代終盤から80年代に社会問題にもなった、世界基督教統一神靈協会（統一教会）などによる、不安を煽り壺や印鑑、多宝塔を訪問販売する「靈感商法」。また、アフリカ等の外国に対する支援を騙り募金や商品の販売をする詐欺。これらに対応す

■千僧法要

昭和63年4月26日、奈良県東大寺大仏殿

昨年の千僧法要の様子



で、仙法興隆誓願、花まつり千僧法要が勤

これ以降、毎年4月26日には東大寺にて千僧法要が開催され、本年で28回目（2015年は5月26日開催）となる。

第七期は1980年代後半に入り、社会問題と倫理的考察、宗教とは何かというこ

問題は、何よりも最初に、宗教（に付けて）、これが問われる出来事や事件が多くかつた時期でもあります。コラムで社会問題・倫理問

題についての考察や青年宗侶に対する提言が行われ、また宗派を超えた仏教が結集する

千僧法要が営まれたということは、「時代の要請」だったのかもしれません。ただ、信

じる心を悪用する商法や、命に対する考え方といふものは、25年以上を経た今でも、

形を変えケースを変え私たちの心を悩ませ
続いている問題であり続いていることも一つの事実です。

2年間に亘り、全曹青初期の活動について振り返ってまいりました。立ち上げから

多様な活動を試行錯誤し、今日まで続く活動の意義を考える一助となれば幸いです。

ご拝読ありがとうございました。

文／広報副委員長 宮入真道

編集後記

最後の最後で編集後記を担当になり、委員長さんから「増ページ拡大号にふさわしいヤツをばしっと」なんてプレッシャーをかけられました。はてさてどうしたものか。今期最後の『SOUSEI』は、禅文化学林四国大会、東日本大震災慰靈法要、全国徒弟研修会と、重要な事業が展開されたため、通常より8頁の増となりましたが、各担当者ががむしゃらに取材・編集を進めました。今期の『SOUSEI』はこれにて最後になりますが、振り返ってみると、40周年ということもあり普段の全曹青とは違った密度の濃い2年間だったように思います。

この大事な節目の期に委員として関われたことに感謝です。第20期はこれで終わりますが、SOUSEIは続きますので今後も愛読よろしくお願いします。ばしっとした内容になったのかな～？ いややはや難しい……。

（全曹青広報委員 横山岳洋）

■表紙の話

今号で、この「旅する雲水」のシリーズも完結。最終回では、桜舞い散る街道で未来を遠望する雲水の姿を描きました。今期スローガン『繋がる想いが未来を拓く』のもとで歩んできた私たち第20期全曹青でしたが、全曹青40年の歴史をひととき、それに携わってこられた先輩方の想い、私たち青年僧侶に期待を寄せてくださっている一般の方の想い、被災された方の想いなどに耳を傾けようとした2年間でした。これからは、私たちが託されたその幾多の想いを次の世代に伝えるために行動していくことはできません。み仏の教えを多くの方がたに伝えるべく、私たち曹洞宗青年僧侶の“大衆教化の接点を求める”旅は、まだまだ終わらないのです。



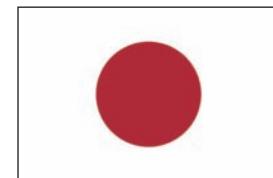
撮影：谷杉アキラ 協力：海龍山自由寺

口ヶ地：青森県むつ市大畠町



ネパール地震支援金のお願い

ネパールの首都カトマンズから北西80km付近を震源とするM7.8の地震が4月25日に発生し、死者はネパールでは7,600人を超え、周辺国のインドや中国、バングラデシュでも死者が出ています（5月6日現在）。全国曹洞宗青年会では、曹洞宗宗務庁および加盟している全日本仏教青年会と協力して救援・復興支援活動を実施するため、下記のとおりボランティア基金を受け付けます。皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。



※受付期間は平成27年5月15日（金）から平成27年8月31日（月）まで。

※ボランティア基金振り込み用紙に「ネパール地震支援金」と明記して下さい。

大本山總持寺二祖・峨山韶碩禪師は、お釈迦さまから高祖・道元禪師、太祖・瑩山禪師へと連綿と受け継がれた正伝の仏法を、多くの弟子たちへ余すところなく伝えられました。その教えは全国に広がり、さらに今や世界へと枝葉を伸ばしております。峨山禪師は、總持寺の住職を勤められた42年の間、瑩山禪師が開かれ、そして示寂の地である永光寺の住職をも幾度か兼任されました。その折、早朝に永光寺の朝課を済ました後、約5.2kmにも及ぶ山道を越えられ、總持寺の法要もお勤めになられました。この山道を「峨山道」というのです。そして、峨山禪師の到着を待つ間、總持寺の雲水は、大変ゆっくりとした読経にてお待ち申し上げたと今に伝わります。これが、「真読」（總持寺独自の「大悲心陀羅尼」の読経法）と呼ばれる唱え方で、現在でも毎朝、總持寺にて唱えられています。峨山禪師の「想い」を相承し、それを現代社会に向けて発揚するため、音楽会のトップ・ランナーである池辺晋一郎氏の楽曲と真読とのコラボレーションによって、「大いなる足音」を未来へ向けて響かせます。

6月23日(火)

13時30分開場 14時開演

会場／みなとみらいホール（大ホール）
料金／2,000円（全席指定）

主催／曹洞宗大本山總持寺 大遠忌局
制作協力／東京コンサーツ

大本山總持寺御両尊大遠忌記念報恩公演 祈りの調べ 「池辺晋一郎と僧伽の出逢い」

【演奏曲目】

大本山總持寺 大遠忌記念作品

『峨山道 ザ・ロード・オブ・レジェンド～真読とオーケストラのために』
(世界初演)

『峨山禪師讃歌』(オーケストラ版初演)

テレビドラマ「独眼竜政宗」

映画「影武者」

映画「剣岳 点の記」

映画「春を背負って」

歌曲「風の子守歌」

(その他・曲順未定)

作曲／指揮／お話：池辺晋一郎

ソプラノ：沢崎恵美

バリトン：大山大輔

管弦楽：神奈川フィルハーモニー管弦楽団

真読：大本山總持寺雲水・青年僧侶有志



池辺晋一郎氏

【チケット取り扱い】

● 東京コンサーツ／03-3226-9755

● チケットぴあ／0570-02-9999

<http://t.pia.jp/> [Pコード 259-252]

● e+ (イープラス) / <http://eplus.jp/>